

# 「厚いカベ」が破れた!

## 熊大の水俣病住民検診



熊大研究班の聞き取り調査 (湯堂公民館で)

「カネはしさに勝(み)てもらう」という声を気にせんでよかつた。全部が勝てもらうんじやけん、気がねすることなか。病気で苦勞した人は見つけ出して「これはいい」(水俣病患者家族) 11日から水俣市で始まった熊大(熊本大学)水俣病研究班代表・武内忠男(熊本学教授)の住民検診には、九〇以上が世帯が健康状態調査票の回答に反応した。出足は好調で、「これで患者一家族の「厚いカベ」は破れた」と研究班は喜んでいる。

調査票の聞き取り調査は半年で〇割以上が回答した。これに対し、室の杉本敏二助教は「回答率が面白いことと、市の積極的な協力を誇ったが、三百六世帯のうち九一研究班の熊大医学部公衆衛生学専攻高かったのは水俣病に対する関心

だれにも気がねなく  
90%以上が調査に回答

が高いことと、市の積極的な協力を誇ったからだ」と話している。そのほか、①隠れ水俣病患者掘掘ムードの盛り上がり②すでに発症時から長期間経てかつたの伝染病扱いなどの厚いカベがなくなっている―なども回答率の高さの理由にあげられる。

水俣病患者家族はどう見ているか。「これで、これまで水俣病に認定されている患者家族は精神的に孤立状態から解放された」と言う。つい最近まで水俣病の認定申請をするのに「カネはしきから」という声が高鳴りあつた。これに金住民が一線に並ぶこととなる。山本亦由水俣病患者家族互助会長も「この検診ではんぞ隠れていた患者を発見してほしい」と希望している。

しかし住民の中には、水俣病患者を自の前にしてその無状などを知っているためか「発症からすでに長いのに今さら水俣病と宣告されたところで病気が直るでなし、もし直る薬があればみてもらってほしいですがね」という高齢者も

いた。

だが、回答率が九〇割を越えたことは、住民検診はいちおう成功の見通しがたてられる。研究班は

今後回答のなかつた家庭を、日曜などを利用して二〇〇割の資料を得たいとしている。今後の作業としては調査票の不備な人や疑た

きりの人たちなどのための速返書問(三、四日)(健康診断)七―十一日(がぶ定まわらる。